

# 三条教区通信

## 第 41 号

発行日 2010年11月1日

発行者 三条教務所長 藤坂 初裕

発行所 真宗大谷派三条教務所  
〒955-0071 三条市本町 2-1-57変更⇒ E-mail: [sanjo@higashihonganji.or.jp](mailto:sanjo@higashihonganji.or.jp)URL: <http://www.gobosama.net>

★本通信は上記 URL からご覧いただけます。

### 今月の法語

〔法語カレンダーより〕

恩を報じ  
徳を謝せよ

【浄土文類聚鈔】

### 研修会等ご案内

#### ■「差別と真宗」共学研修会

開催案内同封

- ◆ 日時 2010年11月12日(金)
- ◆ 会場 教区同朋会館
- ◆ 講師 菱木 政晴 氏 (同朋大学 大学院  
文学研究科 特任教授)
- ◆ テーマ 「女人五障と変成男子を読み解く」
- ◆ 参加費 500円
- ◆ 問合せ 三条教務所(担当:北島・史陀)まで。

#### ■秋安居

開催案内同封

- ◆ 期間 2010年 12月7日(火)～8日(水)
- ◆ 会場 三条教区同朋会館
- ◆ 講師 本多 弘之 氏  
(本年度安居本講師者)
- ◆ 講題 根本言としての名号
- ◆ テキスト 『2010年度 安居講録』¥2,500-
- ◆ 持ち物 真宗聖典、寺族の方は間衣・輪袈裟、略  
念珠、筆記具、その他
- ◆ 参加費 500円

#### ■第30回法灯の集い

開催案内既送

- ◆ 期間 2010年12月6日(月)14時受付  
～7日(火)11時解散
- ◆ 会場 ほてる大橋館の湯(岩室温泉)

〒953-0104 新潟県新潟市西蒲  
区岩室温泉 340 甲  
Tel(0256)82-4125

- ◆ 講師 安 富 信 哉 氏(三条教区第22組  
光濟寺・大谷大学特別任用教授)
- ◆ 講題 『帰敬式の意義について』
- ◆ 参加費 12,000円(1日目の宿泊・夕食懇親  
会費、2日目の朝食を含む)懇親会出  
席で宿泊なしの場合は、8,400円 講  
義のみは1,000円

### 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

#### 本山御遠忌法要団参について

- ① 本山参拝席抽選を受け、教区御遠忌委員会  
法要団参教化部会で調整しました。11月20  
日までに各組から組内各団体の席割を報告  
いただき、本山に報告いたします。
- ② 2011年1月頃には、確定一覧が教務所に、  
「確定書」「手引き」「しおり」「運行計画表」が  
引率責任者に、本山から送付予定です。
- ③ 明年3月上旬に指定席券が本山から引率責  
任者へ送付されます。

#### 2011年

第一期法要	3月19日～3月28日
第二期法要	4月19日～4月28日
第三期法要	5月19日～5月28日
御正当報恩講	11月21日～11月28日

#### 本山御遠忌関連各種行事について

『真宗』誌9月号・10月号・11月号に法要出仕や  
各種イベント案内が掲載されております。今後も御遠  
忌関連記事が掲載されますので、申込につきましても、  
締め切り前にお申し込みください。

#### 教区御遠忌お待ち受け法要兼別院報恩講

- ① 期間 2010年11月5日(金)～8日(月)
- ② 場所 三条別院

③形態 教区お待ち受け法要兼三条別院報恩講

④帰敬式 11月6日(土)日中後鍵役により執行  
 11月7日(日)日中後鍵役により執行  
 11月8日(月)午後門首により執行

⑤日程概要(予定)

日	午前	午後
5	田んぼアート採納式 坊守会採納式 11:00 音楽法要	12:00 おとき 13:00 講話 田口ランディ氏 14:00 初速夜 15:00 御伝鈔 (上巻) 16:00 終了
6	07:00 初晨朝 07:45 法話 (約30分) 10:00 初日中 日中後、帰敬式	12:00 おとき 13:00 法話 武田定光氏 14:00 中速夜 (御参修) 15:20 御伝鈔 (下巻) 16:00 終了
7	07:00 中晨朝 07:45 法話 (約30分) 10:00 中日中 日中後、帰敬式	12:00 おとき 13:00 法話 真城義麿氏 14:00 結願速夜 御俗姓 15:20 文弥人形 16:00 終了 18:30 記念懇親会
8	07:00 結願晨朝 07:55 法話 (約30分) 10:00 結願日中 (御親修)	12:00 おとき 13:00 帰敬式準備 整列開始 13:30 帰敬式 (門首執行) 14:30 記念講演 小川一乘氏 16:00 終了

◎出仕について:

全寺院の御出仕をお願いいたします。

◎帰敬式受式について:

締め切りを過ぎておりますが、受式希望者がおられる場合、教務所までお問い合わせください。本山選定法名にて受式出来る場合がございます。

◎記念懇親会について:

門首をお迎えし、11月7日午後6時40分から燕ワシントンホテルにて記念懇親会を開催いたしますので、多数御参加ください。

**組 御遠忌お待ち受け法要(大会)について**

2010年	
第14組お待ち受け大会	
期 日:	2010年12月4日(日)
講 師	延塚 知道 氏
第23組お待ち受け大会	
期 日:	2010年12月4日(日)

**御遠忌讃仰事業の予定**

本山の御遠忌讃仰期間中の2011年3月31日に、教区の日として本山で田んぼアート採納式や展示企画等を開催いたします。

**教務所別院主催御遠忌団参について**

明年3月に出発する教務所別院主催の御遠忌団参について、募集期間を延長してさらに募集することになりました。

第1班 : 2011年3月20日(日)~ 3月22日(火)

■所要経費 : お一人 57,000円(宴会費込)

■募集人数 : 40名(満員になり次第、締切らせて戴きます。)

■バス乗降箇所 : (新潟駅南口・三条教務所・長岡 I.C.・柏崎 IC)

第2班 : 2011年3月21日(月)~ 3月23日(水)

■所要経費 : お一人 55,000円(宴会費込)

■募集人数 : 40名(満員になり次第、締切らせて戴きます。)

■バス乗降箇所 : (新潟駅南口・三条教務所・長岡 I.C.・柏崎 IC)

※お申し込みは、教務所まで。

**教化委員会からのお知らせ**

**三条教区教化研修テーマについて**

教化委員会企画委員会において、これまでの教区教化研修テーマ「共にといえる 人生を生きよう」について、教化委員会任期満了までの間、継続する運びとなりました。

教区教化委員会を中心に、このテーマについて考察を重ねて、次の教化委員会へ引き継ぐべく、【「共にといえる、人生を生きよう」に憶う】と題して、順番に執筆、毎月『教区通信』に掲載いたします。

第25回目は、研修部会委員の清水寛志氏です。

\*\*\*\*\*

**「共にといえる、人生を生きよう」に憶う**

第20組 通心寺 清水 寛志

三条教区は何ヶ寺あって、何人の僧侶がいて、何人のご門徒さんがいるのだろうか。

どの研修会でも、聴講の方が少ないという点が問題になっているだろう。もっとも、教区の研修会に限らず、各組、各寺院においても同じ問題を抱えている気がする。

自分の関わっている研修部会でさえ、表では多くの方に参加して欲しいと思いつつ、誰一人一緒に研修

会に誘って参加していない私は、少なくとも「共にといえる、人生を生きよう」というテーマには程遠い。

「共に」というと、いろいろな場面で使われている。「共に」と強調するのは、人間ひとりでは生きていかれないと思いつつも、ややもすると自分の殻に閉じこもりやすいのであろうか。最近では結婚式の定番ソングになっている、コブクロの「永遠にともに」を思い出す。その歌詞のなかで、「やっとここから踏み出せる未来 始まりの鐘が 今 この街に響き渡る」とサビに向かい、「共に歩き 共に探し 共に笑い 共に誓い 共に感じ 共に選り 共に泣き 共に背負い 共に抱き 共に迷い 共に築き 共に願い」と歌われている。ここではさすがに「共に往生」とは言っていないが、花嫁花婿に限らず、こういう気概で人間関係していきたいものである。そう考えると、いかに私が薄っぺらな人間関係を築いているかと思うと同時に、「共に往生しよう」という過去から現在に至るまでの御同朋御同行方々の呼びかけに背いているのではなからうか、と感ずる。

そういう意味であらためてこのテーマは、こちらからの呼びかけでもあり、呼びかけられていることでもあるなあとと思う。三条教区の研修部会としても、老若男女、生まれ、身分、精神、身体の差別なく「共にといえる、人生を生きよう」という、いわば「ここから踏み出せる未来」のスタートラインに立って、誘い合って教化事業に取り組んでいかなければならないだろう。

※次回は研修部会委員の長田暢氏(第16組善興寺)よりご執筆いただきます。

### 秋季声明講習会開催報告



去る10月20日(水)、教区同朋会館にて秋季声明講習会が開催された。本年度の講師は、昨年度に引き続き、本山堂衆の藤澤善夫氏をお迎えし、同朋唱和勤行の講習と、御遠忌法要厳修についての講義をいただいた。

本山御遠忌法要を目前に控えた今、同朋唱和のさらなる推進と、各寺院における御遠忌法要厳修を視野に入れて開催した講習会。参加人数は部門スタッ

フ含め22名と例年よりは少なくはあったが、法要や荘厳等について貴重なお話を聞かせていただき、御遠忌を迎えるにあたり、非常に良い機会になったのではないかと感じる。

### 2010年度教区女性研修会報告

榎並 葉子(第十組善勝寺坊守)

期 日 10月5日(火)

会 場 教区同朋会館

講 師 古田 和弘 氏(大谷大学名誉教授・九州短期大学名誉学長)

講 題 御遠忌を迎えるころ～宗祖としての親鸞聖人に遇う

参加人数 53名

私たちスタッフは、宗祖親鸞聖人七百五十回忌を控え、現代を生きる真宗門徒である私たち一人ひとりがどのような形で、宗祖の教えに出遇おうとしているのか、親鸞聖人は、どのような課題を見出しになっただのかを学び、私たち自らが人として歩む道を問い直す機会となることを願ってこの研修会を計画した。

講師の古田先生には、4ページにわたるプリントをもとに3時間にわたって講義をいただき、最後に参加者からの質問に対する質疑応答が45分間もたれた。

#### 【講義のあらまし】

宗祖親鸞聖人とは、どんな人で私たちに何をなされた人なのかということから、親鸞聖人は、「真宗開頭の祖」であって、日常の暮らしの中で、一番大切な念仏により目ざめた人になることを説かれた方であること。

真宗は、念仏によって成仏すること、真宗は、目ざめた人になることであって、知識の対象にしたり、研究するものでなく、いただくものであること。「宗祖としての親鸞聖人に遇う」とは思いがけなくめぐり合い、出遇うこと遭遇すること、偶然出会うこと、それが御遠忌であること。

次に親鸞聖人の教えとしての「正信偈」の構成についての講義がなされた。

- 1 総讃 帰敬(仏を讃え聖人の信心を明らかにされた部分) 帰命無量寿如来～
- 2 依経段(『大無量寿経』に依って述べられた部分)
  - 2-1 弥陀章(阿弥陀如来について述べられた部分) 法蔵菩薩因位時～
  - 2-2 釈迦章(釈尊の教えについて述べられた部分) 如来所以興出世～
  - 2-3 結誠(「依経段」の結び) 弥陀仏本願念仏～
- 3 依釈段(念仏の教えについての七高僧の解釈を讃えた部分)
  - 3-1 総讃(全体的に讃えた言葉) 印度西天之論家～
  - 3-2 龍樹章(インドの龍樹大士を讃えた部分)

釈迦如来楞伽山～

- 3-3 天親章(インドの天親菩薩を讃えた部分)  
天親菩薩造論説～
- 3-4 曇鸞章(中国の曇鸞大師を讃えた部分)  
本師曇鸞梁天子～
- 3-5 道綽章(中国の道綽禪師を讃えた部分)  
道綽決聖道難証～
- 3-6 善導章(中国の善導大師を讃えた部分)  
善導独明仏正意～
- 3-7 源信章(日本の源信和尚を讃えた部分)  
源信広開一代教～
- 3-8 源空章(日本の源空(法然)上人を讃えた部分)  
本師源空明仏教～
- 3-9 結勸(「依釈段」の結び)  
弘経大士宗師等～

## 2-2 釈迦章について

如来所以興出世 釈迦如来が世に出られたわけは  
唯説弥陀本願海 ただ、海のように広く深い阿弥陀  
仏の本願を説くためである。

五濁悪時群生海 五濁の悪時のすべての人びとは  
応信如来如実言 釈迦如来の真実の通りのお言葉  
を信すべきである。

お釈迦様は、たまたま 2500 年前にインドに現れた(生まれた)のに親鸞聖人は、わざわざ自分のために生まれたと受けとめられた。そういう視点が、私たちが「宗祖親鸞聖人」を見る視点でなければならないということ。

私は、先生のお話から「宗祖親鸞聖人にお会いする」ということを次のように受けとめた。

親鸞聖人は釈尊が偶然現れたお方ではなく、自分のためにわざわざお出ましになられ、阿弥陀仏の本願のことを教えてくださった(説くためだった)と受けとめておられた。そういう聖人を私たちが受けとめるということ。

親鸞聖人は、たまたま鎌倉時代に出られて、いろいろ苦勞されて、いろいろ教えを説いて私たちに遺してくれただけでなく、私たちが何とかしてやりたいということで浄土真宗を明らかにしてくださったんだと私たち一人ひとりがそう思うことで宗祖としての親鸞聖人に触れ、お会いすることのきっかけになるのではないかと思うのです

先生のご講義から、来る明春四月の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を迎える心構えとして、多少なりとも心に受けとめることができ、宗祖としての親鸞聖人にそれぞれの思いのうちにお会いできるものと信じています。

合掌

## 教務所からのお知らせ

### ◎ラジオ放送「東本願寺の時間」について

宗門が1951年11月よりラジオ伝道として取り組んできている「東本願寺の時間」について、吉運堂様のご提供により、新潟県でもお聞きになれます。

また、現在は、宗祖の御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」を番組テーマとして様々な方より法話をいたしておりますが、現在、宗派のホームページである「しんらんしょうにんホームページ」(<http://higashihonganji.jp/index.html>)にて、これまで放送された番組をお聴きいただくことができます。是非、ご聴取ください。

### ◎英語版宗派ホームページの開設

アドレス <http://higashihonganji.or.jp/english/>

### ラジオ放送「東本願寺の時間」

- テーマ 「今、いのちがあなたを生きている」
- 講師 (事情により変わる事があります)
  - ★10/10～11/20 小川一乗 氏(北海道教区)
  - ★11/21～12/31 酒井義一 氏(東京教区)
  - ★1/1～1/7 宗務総長のお話の予定です。
- 放送局 新潟放送(BSN)
  - \*新潟県全県をカバー
  - ・小出エリア 1026KHz
  - ・中越エリア 1062KHz
  - ・下越エリア 1116KHz
  - ・塩沢エリア 1485KHz
  - ・上越エリア 1530KHz
- 時間 毎週金曜日 5:00～5:10
- 提供 吉運堂 様

### ◎同朋の会結成届けについて

寺院・教会や地域などで同朋の会が結成されましたら、結成届を教務所にご提出ください。届出の提出されました同朋の会には、「同朋の会提灯」や「同朋の会奉仕上山旗」が無償で贈呈されます。

(贈与は1回。提灯や上山旗には申請されました会の名称が入ります)また、「同朋会員結婚記念念珠」が無償で贈られます。詳しくは教務所(森・北島まで)

### ◎いのち・愛・人権新潟展におでかけください

部落差別をはじめ、一切の差別を撤廃し、平和と民主主義、人権の確立という願いを、すべての新潟県民のなかに確かなものとしていくことをめざし、「いのち・愛・人権展」を1989年に新発田市で開催して、今年で22回目を迎えます。

今年は「いのち・愛・人権」新潟展として次の内容で開催されます。

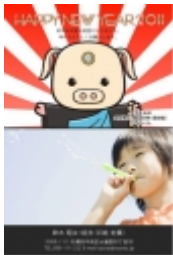
是非、ご参加ください。

- ◆期間 2011年1月26日(水)～2月1日(火)
- ◆会場 りゅーとびあ(新潟市民芸術文化会館)
- ◆記念講演会
  - ・日時 1月26日(水) 15:00～16:50
  - ・場所 りゅーとびあ
  - ・講師 荒木康雄氏  
(全国人権教育研究協議会事務局長)
  - ・講題 部落問題と人権教育の課題
  - ・参加費 無料
  - ・問合せ 新潟市 市民総務課市民相談係  
(☎025-226-1025)

### ◎当派キャラクターの年賀状出来ました。

<http://nenga-kazoku.com/>

本山で設定しました。クリックすると7種類のデザインが表示されます。



「nn\_yur0069」



「nn\_yur0082」

### ◎教区他 主な行事予定一覧(10月23日現在)

日程は変更となる場合があります。諸行事の重複等を避けるうえで参考になるよう、なるべく把握している行事は掲載しております。

日程は諸事情により変更される場合があります。

日	時	行事内容
<b>2010年</b>		
<b>11月</b>		
11/2	09:00	法要準備
11/3	14:00	ごぼさま寄席
11/4		松葉幼稚園報恩講
11/5		～8日教区お待ち受け法要兼三条別院報恩講
11/6	14:00	真宗学院報恩講参拝
11/9		～11日部落解放全国研究集会(於: 朱鷺メッセ)

11/12		差別と真宗共学研修会
11/13	14:00	真宗学院
11/15	14:00	16組差別と真宗学習会
	16:00	選挙管理会
		同朋の会教導連絡協議会総会
11/18	14:00	教化委員会企画委員会
11/19		教区御遠忌委同朋会運動推進部会
		15組会
11/20	14:00	真宗学院
11/21		～28 日本山報恩講
		～22 日夏の集い下見
11/24		10組養成講座反省会
11/25		組長選挙最終日
11/27	14:00	真宗学院
		別院本山団参
11/29		15組有縁会
11/30		15組坊守学習会 正副組長・組奨励員・同朋の会教導任期満了
<b>12月以降の予定</b>		
12/3		～5日 15組推進員養成講座後期上山
12/4	14:00	真宗学院
		14組お待ち受け法要
		23組お待ち受け法要
12/6		～7日法灯の集い
12/7		～8日秋安居
12/9	13:00	16組坊守学習会
		連区坊守会長会
12/11	14:00	真宗学院
12/18	14:00	真宗学院
		～19日 18組お煤払い奉仕団
12/23		選出教区会議員・教区監事(参事会選出)任期満了
12/24		選出教区会議員選挙日
<b>2011年</b>		
1/12		臨時教区会予定
1/21		～22日保育 園長・設置者研修会
2/26		～27日真宗学院一泊研修 保育講習会
3/1		～2日教学研究会(三木彰圓氏)
3/5		～6日 15組推進員養成講座(別院)
3/11		～12 御遠忌オープニングの所長会
3/19		～3/28 本山御遠忌第一期法要
3/29		～4/18 本山御遠忌御遠忌讃仰
3/31		御遠忌讃仰三条教区の日(於本山) 御依頼適正審議会委員・「差別と真宗」協議会員任期満了
4/1		～3 日本山春の法要
4/4		声明基本講習会
4/8	午後	15組別院清掃奉仕
4/19		～4/28 本山御遠忌第二期法要
4/29		～5/18 本山御遠忌御遠忌讃仰
5/19		～5/28 本山御遠忌第三期法要

6/4	保育大会・新任研修会
6/13	15・16 組育成員研修
6/30	教区教化委員・教区坊守会役員・教区御遠忌委員(所長選定)任期満了
9/30	査察委員任期満了
11/5	～8 日 三条別院報恩講
11/21	～28 日本山御正當報恩講
<b>2012 年 同朋会運動50周年</b>	
3/31	教区門徒会員・教区監事(常任委員会選出)任期満了
4/30	参議会議員任期満了

## 駐在教導のつづき

～北島之篇～

先日19日、推進員の方々を中心に、来る三条別院でのお待ち受け法要兼別院報恩講に向け、別院の庭や境内等の屋外の清掃・草取りと屋内の清掃をした。当日は、別院有志の会の方々も加わって、総勢37名の参加であった。

実は、推進員で清掃をするようになって3年が経つ。別院の清掃は、広いという事もあるが、日ごろ十分に手を入れてない事もあり、清掃は思いの他大変である。それに加え当初は、そのつけが貯まりに貯まっており、あからさまにゴミの山が庭の中にあった様相であった。

それに比べると、現在の庭はこれでもまだ見れる庭になってきた。これはまさに継続のたわものである。しかし、草も自分なりに生きており、また元気に生えてくるのである……。となると職員の働きにも限界がある。だからこそたくさんの奉仕団が来る推進員の奉仕団は別院にとっても、「奉仕団」の枠を超えた重要な「作業」の日となるのである。正直、30代後半に差し掛かった私でも、疲れてしまう。

かたや推進員の皆さんは、ある方は足を引きずりながら、腰を曲げながら奉仕活動をしてください。その姿を見ると、正直私自身が恥ずかしくなる……。「若いもんは何している？」歯がゆさを感じずにはおれない。だからこそ「頭が下がる」下げずには居れないのです。

別院に限らず寺院の護持に関しては、寺族だけでは護持しきれない現状がある。これは、人間にしても同じことが言えると思う。一人で生きていたいながらも、どうしても人の力を借りなければ生きて行けないのが、人間。そこには「お互い様」という関係があるのだ。

庭を庭師に綺麗にしてもらおう、もらわないはともかく、その「お互い様」が自分の力を超えた「頭が下がる」世界を教えてくれ、「美しい」と感じさせてくれるのではないかと考えさせられる。だから、寺の庭が皆のものとなっていくのではないか。それが相続なのではないで

ようか。

しかし、「お互い様」というのなら、私たち寺族は何かをしてあげられているのだろうか？

この賛否も私の解釈から離れないものだろうが、そんな違和感をいつも覚えながら「別院奉仕」をさせていただいている。

是非、別院の庭に止まらず、皆さんの庭も「美しい」庭であります事を願います。

## 所員のささやき ～加田岡之篇～

先日、ある御寺院の住職とお話をしていたら、真宗本廟の毛綱の話題になった。その方は、むかし教員をされていた時に、本山へ参拝される機会があり、たまたま「毛綱」の前で、この毛綱は、新潟県のご門徒から寄進されたものだと言われ、説明書きを見られて、ちょうど、その寄進された地区の学校に赴任していたということで、地域の方々にこの毛綱について伝わっていないか聞いてみたが、全くそのような話は伝わっていないということだった。▼名も無き門徒からの寄進と考えるとしまえばそうなのだが、当時は熱心な方がおられたのだろう。しかし、時代と共に忘れ去られて、消えていってしまうものを感じさせられた。私としては「うちのおばあちゃんが昔本山の再建で寄進したらしいよ」という回答がほしかった。▼先月、阿賀野川の写真を撮影に行った。これは、本山で制作している御遠忌広報DVDのワンカットに阿賀野川の映像を流したいということで、我古巣である出版部の制作担当している職員から要請があつて、出張のついでに撮影してきた。だいたいこの辺りだということは聞いていたが、ハンパなく広い川だ。カメラのフレームに収まりきらない。特に碑が立っているわけでもなかった。今となっては、多くの人は、何も知らずに川を眺めているのだろうか。▼シリーズ親鸞が筑摩書房より発行されているが、第6巻の「親鸞の伝記」を見てみると越後の七不思議について触れられていた。現在の七つの伝承は、大正時代を過ぎてから固まったということが述べられていた。その他6つの伝承が物語として存在し、時代ごとに、七不思議が再編成されてきたということだ。▼毛綱を寄進された方の事柄については、今ではもうわからない。その地区も過疎化が進んでいる。学校も廃校になっているとのことだ。いろんな言い伝えは歴史の中で揺れ動いていく。何が正しい事実なのかということとはなかなか難しい問題のようだ。何か歴史の揺らぎのようなものを通して今に至っているのだろう。考えてみれば、毛綱は現在も本山に残っている。今、形あるものとして残っている。考えてみれば、わかったようなつもりで今まで毛綱を見てきたのだなあと思う。新潟に来て、現地に来て改めて事実に向き合うことがあるのだなあと考えさせられる出来事だった。